

## 令和4年度 林業普及指導事業活動事例集

普及指導活動の取組内容	森林室	頁
市町職員の技術力向上に向けた指導 ～意向調査を活用した取り組み～	空知総合振興局森林室	----- 1
森林環境譲与税の活用を主とした木材利用の推進 ～北海道産木材を用いた木質構造物のセミナー開催～	石狩振興局森林室	----- 2
民国連携による「ほっかいどう企業の森づくり」活動への支援 ～J Tの森積丹 森林保全活動2022～	後志総合振興局森林室	----- 3
林業後継者の施業意欲の向上を目指して ～山づくり講座(壮瞥・伊達地区)の開催～	胆振総合振興局森林室	----- 4
指導林家・林業グループ連協と共に取り組む普及指導活動 ～地域材の利用促進～	日高振興局森林室	----- 5
地域材(道南スギ・トドマツ)利用の推進 ～北海道大野農業高校「牛舎棟・羊豚舎棟」完成見学会の開催～	渡島総合振興局東部森林室	----- 6
北海道指導林家の森林づくりと森林計画制度の理解促進 ～市町村職員技術力向上研修会の開催～	渡島総合振興局西部森林室	----- 7
地域材(道南スギ)利用拡大の取組み ～林業講座(林業後継者育成事業)の開催～	檜山振興局森林室	----- 8
森林環境譲与税の効果的な活用に向けた支援 ～森林施業研修会の開催～	上川総合振興局南部森林室	----- 9
コンテナ苗植栽を見据えた取組 ～林業軽労化技術研修会の開催～	上川総合振興局北部森林室	----- 10
地域を守る多様な森林づくり ～留萌森づくり交流会の開催～	留萌振興局森林室	----- 11
製炭技術・薪炭林の管理に向けた支援 ～林業後継者育成事業(林業講座)の開催～	宗谷総合振興局森林室	----- 12
I C Tによる効率的な森林管理業務の推進 ～レーザードローンなどの活用に向けた技術研修会の開催～	オホーツク総合振興局東部森林室	----- 13
無間伐林分の解消に向けた間伐等の推進 ～林業普及指導事業活動計画における重点課題の取組～	オホーツク総合振興局西部森林室	----- 14
森林組合の地域貢献への支援と職員のスキルアップの取組 ～要請に対応できる人材の育成・確保～	十勝総合振興局森林室	----- 15
より若い世代への森林・林業の認知度アップの取組 ～弟子屈町立美留和小学校での出前講座の開催～	釧路総合振興局森林室	----- 16
森林経営管理制度に係る取組への支援 ～羅臼町における森林環境譲与税を活用した間伐の実施～	根室振興局森林室	----- 17

# 市町職員の技術力向上に向けた指導

～意向調査を活用した取り組み～

所属：空知総合振興局森林室

## 背景

- 市町の林務担当部署には、経験が浅い職員が多く、森林施業等を主導できる人材が少ない。
- 森林経営管理法に基づく意向調査の結果が、森林の整備に結びついていない。

## 目的

- 市町担当職員に対して、公有林整備等に必要となる知識や技術のスキルアップと ICT 等の先端技術の習得を図る。
- 市町村が行う森林経営管理法に基づく意向調査を支援し、森林整備に繋げる。

## 活動内容

- 市町村が行う公有林整備や森林経営管理法に基づく意向調査を進めていく際に必要とされる森林の現況調査や、施業に関する技術の習得・知識の向上を図るため、各市町への指導を行った。

【支援市町】・三笠市(7/15)

- ・芦別市(2/15・3/1～2・3/6～3/7・3/16～17 計7回)

【参加者】・三笠市役所職員(1回2名)

- ・芦別市役所職員・森林組合職員(7回3名)

【内容】①意向調査支援

- ・意向調査対象林分の標準地の設定を行い、胸高直径・樹高を測定し森林資源状況の把握・取りまとめ等の支援(三笠市・芦別市)。
- ・事前に絞り込みを行った意向調査対象地において、効率的な現地踏査を行うため、スノーモービルを活用した冬山での調査を実施(芦別市)。

②先端技術習得支援

- ・面積が広く目視が困難な森林については、ドローンを活用した調査を実施。



森林資源調査指導(三笠市)



冬山調査指導(芦別市)



森林資源データ作成指導

## 活動の成果

- 森林に関する知識・技術の習得により、市町村森林整備計画に基づく適切な林務行政の運営や継続的な公有林整備の推進につなげることができた(三笠市公有林：主伐11ha)。
- 従来の標準地調査だけでなく、UAV(ドローン)を活用した林分把握方法を学び、効果的な森林調査技術の向上が図られ、次年度以降として、15haの森林施業につなげることができた(芦別市私有林：間伐5ha・主伐10ha)。

## 今後の課題

- 林務担当者職員は短期間で異動するため、森林整備等に係る知識や技術の継続的な指導が必要。
- 森林経営管理法に基づく意向調査など、未実施の市町への支援が必要。

## 展開方法

- 継続した指導を実施するとともに、基礎的内容をまとめた施業技術マニュアル等を作成し効率化を図る。
- これまでの取り組みをモデル事例として、他市町への波及を図る。

# 森林環境譲与税の活用を主とした木材利用の推進

～北海道産木材を用いた木質構造物セミナーの開催～

所属：石狩振興局森林室

## 背景

○管内市町村では、森林環境譲与税の用途案として木材利用への活用を掲げているが、木造・木質化に係る取組方法など、具体的な用途案が見いだせていない状況にある。

## 目的

○市町村職員の木材利用に関する技術・知識の向上と地域材利用の理解促進を図り、森林環境譲与税を活用した公共施設の木造・木質化や木製品の導入につなげる。

## 活動内容

○試験研究成果や道内の森林環境譲与税を活用した木材利用の取組事例等について情報発信を行うとともに、道総研林産試験場研究職員との連携によりセミナーを開催。

【日時】令和4年9月8日（木）13:00～15:00

【場所】江別市都市と農村の交流センター「えみくる」

【主催】石狩振興局森林室

【講師】（地独）北海道総合研究機構森林研究本部林産試験場 主査（構造） 今井 良  
主任主査（材料） 小林 裕昇

【参加者】市町村担当職員（林務、建設・建築・公園）、石狩振興局林務課職員 計18名

【内容】（室内講義）

- ・ 道内の公共建築物の事例に基づく地域材利用のすゝめ
- ・ 設計士が考える木質構造物の設計ポイント

（屋外研修）

- ・ 江別市で森林環境譲与税を活用して建設中の大型木製遊具を視察



市町村へ情報発信



室内講義



大型木製遊具視察

## 活動の成果

- 市町村職員のスキルアップとともに、木材利用に対する理解と意識の醸成が図られた。
- 森林環境譲与税を活用し、地域材を材料とした木製品・木製玩具の製作及び地域乳幼児への配付をはじめ、老朽化した公園遊具更新に伴う大型木製遊具施設の導入など、具体的な検討を開始した。

## 今後の課題

○森林環境譲与税を活用した公共施設の木造・木質化や木製品の導入など、地域材のさらなる利用拡大を推し進めるための継続的な支援が必要。

## 展開方法

- 引き続き、地域材利用拡大に向けた情報収集及び情報提供を継続的に実施する。
- 江別市の取組等をモデル事例としてPRするなど、他市町村への波及を図るための普及指導活動を展開する。

# 民国連携による「ほっかいどう企業の森づくり」活動への支援 ～JTの森積丹 森林保全活動2022～

所属：後志総合振興局森林室

## 背景

○JT(日本たばこ産業(株))と積丹町は令和3年に社会貢献活動として森林整備に取り組む企業と森林施業を希望する所有者とのマッチングを進める「ほっかいどう企業の森づくり」協定を締結。

## 目的

- 積丹町の川や海など流域の生物に恵みをもたらす水源の森づくりを進める。
- 持続可能な地域振興の一環として、JTの関係者や積丹町民に森林保全活動等への参加を促す。

## 活動内容

○令和4年度における「JTの森積丹」の森林保全活動について、森林室、林務課、森林管理署、森林整備センターが連携して支援を行った。

【日時・場所】令和4年5月28日(土)、10月1日(土)

【参加者・スタッフ】JT関連企業からの参加者40名、積丹町ほかスタッフ 合計127名

【内容】

- ①カラマツ人工林における森林調査(測樹)体験：普及課
- ②ネイチャーゲーム(カモフラージュ)：木育主査
- ③動物の痕跡さがし：普及課
- ④植樹活動(トドマツコンテナ苗1,000本)
- ⑤コンテナ苗用の植栽器具(森林管理署が用意：スペード、ディプル、電動オーガ)を使用した植樹活動



森林調査(測樹)体験



動物の痕跡さがし



植樹活動

## 活動の成果

- 参加者は、各種体験を通じ、森林を育てることの必要性、森林内における生態系の豊かさ、森と海のつながりを理解するとともに、森林保全活動の大切さを実感した。
- 石狩森林管理署・森林整備センターとの連携した活動支援により、それぞれが得意とする分野・知見を活かしたメニューを提供することができた。また、コロナ禍で活動が停滞していたが、目的や要望に添った活動を3年振りに行うことができた。

## 今後の課題

- 国と連携し、「JTの森積丹」への継続した森林保全活動支援が必要。
- JT関連企業だけでなく、地域住民にも活動への理解を進めることが必要。

## 展開方法

- 参加者の要望等を踏まえ、次年度以降の活動内容を町や国等と連携し進める。
- 「JTの森積丹」の森林を活用した地域住民(児童等)への木育活動の実施。



# 林業後継者の施業意欲の向上を目指して

～山づくり講座（壮瞥・伊達地区）の開催～

所属：胆振総合振興局森林室

## 背景

○森林所有者の高齢化が進む一方、適切な山林の継承が進んでおらず、後継者に対する林業技術の普及や施業意欲の喚起が急務。

## 目的

○世交代を見据えた森林所有者と林業後継者の育成を図るため、個別指導により確保した後継者への継続的な普及指導を行い森林施業への理解促進を図る。

## 活動内容

○山づくり講座（壮瞥・伊達地区）の開催

【日時】令和4年11月23日（水・祝）13:00～15:30

【場所】壮瞥町上久保内ほか

【参加者】林業後継者5名 青年林業士1名 胆振西部森林組合1名  
伊達市・壮瞥町担当職員各1名 道央地区種苗協議会1名  
胆振総合振興局森林室豊浦事務所3名 計12名

【内容】①カラマツ・トドマツの育苗、コンテナ苗の普及状況（講師 道央地区種苗協）  
②カラマツ・グイマツ・グイマツ雑種F<sub>1</sub>の特性について  
～樹種毎の成長差・保育作業・病虫獣害の発生など～（講師 豊浦事務所）  
③伊達市木質ペレットプラントの見学  
～製造工程の見学・伊達市の木質ペレット普及施策の解説～  
（講師 胆振西部森林組合・伊達市）



育苗工程の解説



野鼠害の確認



木質ペレット製造工程の見学

## 活動の成果

○林業後継者は農業・公務員・民間企業などの本業があることから、平日や農繁期ではなく農閑期の休日に開催することにより参加者を確保することができた。  
○育苗から保育・木材利用まで一連の流れを盛り込んだ現地研修としたことで、これまで林業と関わる機会の少なかった後継者の地域林業・木材産業等への理解が深まった。

## 今後の課題

○林業後継者の森林施業全般への理解促進や所有林の適正管理への意欲喚起を図ることが必要。  
○引き続き地域在住の林業後継者を確保することが必要。

## 展開方法

○本講座を継続的に開催するとともに、講座終了後の参加者アンケートの結果や林業後継者の希望に応じてテーマを変えるなど、林業知識・技術等の一層の向上に繋がるよう、継続的な取組を進めていく。

# 指導林家・林業グループ連協と共に取り組む普及指導活動 ～地域材の利用促進～

所属：日高振興局森林室

## 背景

- 指導林家、林業グループ員の高齢化、会員等の減少。
- 普及指導員のパートナーとして、連携した取組を継続していくことが必要。

## 目的

- 林業グループ連協の創立 60 周年、指導林家連絡協議会の 20 周年を迎えた両協議会の活動の更なる活性化を図る。

## 活動内容

- 創立記念事業の一環として行った「日高産木材を使った木製品」の日高振興局への寄贈、記念誌発行を支援。
- 森林室は日高産広葉樹利用拡大及び未利用材活用の取組についての情報提供や、大径木加工工場・天然広葉樹原板展示場の見学等の研修会を開催。

### ◆「日高産木材を使った木製品」寄贈式

【日時】令和 5 年 1 月 23 日（月）11:00～11:30

【場所】日高振興局 1 階 玄関ホール

【寄贈者】日高管内林業グループ連絡協議会 中脇栄副会長（青年林業士）  
日高管内指導林家連絡協議会 小森司会長（指導林家）

【受贈者】日高振興局 生田局長（立会人）日高振興局森林室 高田室長

【寄贈品】・テーブル：日高産広葉樹（ニレ）を使用し、地元のアイヌ工芸家が製作。  
・椅子（4 脚）：様似町のスギ丸太を使用し、庫富林業グループ員が製作。  
※寄贈品は日高振興局 1 階玄関ホール及び森林室に常設展示される。



寄贈式の様子



寄贈品の木製椅子

## 活動の成果

- この取組は地元報道機関にも取り上げられており、多くの地域住民に両協議会の活動が周知された。加えて、地域材の魅力を PR することができた。
- 森林室としては、この活動を支援することで、両協議会との連携が強化されるとともに、活動の活性化が図られた。

## 今後の課題

- 指導林家及び林業グループ構成員の高齢化。
- 指導林家及び林業グループ構成員の活動のさらなる活性化。

## 展開方法

- 林業後継者等の参加を促すなど、若返りや世代交代を進める。
- 今後も指導林家及び林業グループと連携し地域課題等に応じた活動に積極的に取り組む。

# 地域材（道南スギ・トドマツ）利用の推進 ～北海道大野農業高等学校「牛舎棟・羊豚舎棟」完成見学会の開催～

所属：渡島総合振興局東部森林室

## 背景

- 道南地方は、スギ・トドマツを中心とする造林が行われ、その人工林資源は主伐期を迎えている。
- 道南スギなどの地域材は、管内での利用が少ない。

## 目的

- 地域材の公共建築物や住宅等への利用を推進し、地材地消に向けた意識の醸成を図る。

## 活動内容

- 地域材の利用推進に向け、道南の道有林材及び道南スギ等の地域材、カラマツCLTやコアドライ材を利用し建築された、北海道大野農業高等学校の「牛舎棟・羊豚舎棟」の完成見学会を開催した。

【日時】令和5年3月29日（水）10：30～12：00

【場所】北海道大野農業高等学校「牛舎棟・羊豚舎棟」（北斗市向野）

【主催】渡島総合振興局東部森林室

【共催】地域材で家を建てる・道南材の利用促進を考える会、道南スギ産地形成推進協議会、北海道造林協会渡島支部

【参加者】101名（建築関係者、国有林関係者、市町村、林業木材産業関係者等）

【内容】①施設概要について（説明：工事監理者）

基本設計のコンセプト、工事概要について

②地域材利用について（説明：渡島東部森林室普及課）

道有施設を活用した道産木材ショーケース事業（道有林材の供給）及び地域材利用の意義・メリット等について

③施設見学：牛舎棟・羊豚舎を見学



開会及び施設説明



牛舎棟の見学



羊豚舎棟の見学

## 活動の成果

- 地域材利用が地域の林業活性化や森林の循環につながることへの理解が深まった。
- 道産木材（道南スギ、トドマツ、カラマツ）の使用事例を紹介することで、地域材利用について知識の向上が図られた。

## 今後の課題

- 地域材を含めた木材利用の推進など各市町への支援が必要。
- 公共建築物等への地域材利用の機運は高まっているが、地域材利用に関する知識等が不足している。

## 展開方法

- 今後も各市町等へ、木材利用の事例等に関する情報提供を行う。
- 公共建築物や住宅等への地域材利用拡大に向けた研修会等を開催する。



# 北海道指導林家の森林づくりと森林計画制度の理解促進

～市町村職員技術力向上研修会の開催～

所属：渡島総合振興局西部森林室

## 背景

- 町の林務担当職員は人事異動により林業に関する知識が少ない職員が多い。
- 林務経験の浅い担当者に対して、知識の付与が必要。

## 目的

- 町職員が業務を円滑に進めるための森林・林業に関する基礎的な知識の取得や技術の向上を図る。

## 活動内容

- 市町村職員を対象に、指導林家所有山林を視察し森林づくりの考え方を学ぶとともに森林計画制度の基礎を習得する研修会を開催した。

【日時】令和4年11月9日（水）10:00～15:00

【場所】知内町内（現地：指導林家所有山林、室内：知内町役場）

【主催】渡島総合振興局西部森林室

【参加者】町職員3名（福島町、知内町、木古内町）

【講師】北海道指導林家 佐藤 鐵哉氏

【内容】現地：指導林家の森林づくり（人工林の施業方法や仕立て目標について）

室内：森林計画制度の基礎（伐採及び伐採後の造林の届出、森林経営計画、演習問題）



現地研修

（指導林家が森林づくりを説明）



現地研修

（指導林家所有山林の見学）



室内研修

（森林計画制度の基礎）

## 活動の成果

- 指導林家所有山林を見学することで、指導林家の目指す森林づくりの考え方等について理解が深まった。
- 町職員は他町の森林を見る機会が少ないため、施業方法による成長の違いなどを理解するきっかけとなった。
- 町が行う森林計画制度について、理解を促進することができた。

## 今後の課題

- 今回は川上である森林づくりについて研修を行ったが、今後は川下である林産関係を含めた研修も必要。
- 森林計画制度について今後は業務に関わりが多い応用的な研修も必要。

## 展開方法

- 町職員の林業・木材産業に関する知識や技術の向上を図るため、研修会は今後も継続して行う。
- 町職員の林務経験に応じた、効果的な研修内容を検討し支援する。



# 地域材（道南スギ）利用拡大の取組み

～林業講座（林業後継者育成事業）の開催～

所属：檜山振興局森林室

## 背景

- 檜山管内の主要樹種であるスギは、利用間伐、主伐期を迎え、更新を必要とする林分が大半を占めている。
- 適切な森林整備のため人材の育成、地域材の利用拡大が求められている。

## 目的

- 森林所有者及び林業関係者を対象に地域材を利用した活用事例を紹介するとともに、森林認証制度の知見を深めることで、森林整備に対する意欲の高揚を図る。

## 活動内容

- 森林所有者等を対象に、林業知識向上と地域材の利用促進への理解を図るため、令和4年度林業後継者育成事業（林業講座）を開催した。
  - 【日時】令和4年11月17日（木）11:00～12:00
  - 【場所】厚沢部町緑町コミュニティーセンター（室内研修）  
道の駅 あっさぶ 新商業施設（現地研修）
  - 【主催】檜山振興局 森林室
  - 【参加者】森林所有者 8名  
林業関係者 9名  
（町、森林組合、檜山森林管理署、檜山振興局林務課、渡島総合振興局東部森林室）
  - 【内容】室内研修
    - ・森林認証制度の概要
    - ・厚沢部町内の木材公共施設及び道の駅商業施設の概要現地研修
    - ・地域材（道南スギ）を活用した商業施設の見学



室内研修



研修参加者



現地研修

## 活動の成果

- 参加者は森林認証を受けた地域材（道南スギ）を使用した商業施設を見学し、木材公共施設等への地域材の利用状況の説明を受けたことで、地域材の有効利用について理解を深めることができた。
- 林業関係者に地域材の活用事例を紹介することで、地域材の魅力を伝え、地材地消への取組を発信することにより森林整備に対する意欲の高揚が図られた。

## 今後の課題

- 未整備森林の解消に向け、後継者を含む森林所有者の育成が必要。
- 木材の利用促進に向け地域材（道南スギ）のPR、公共施設を含めた施設の木質化。

## 展開方法

- 町が行う意向調査に同行し、森林所有者の掘り起こしと育成を進めていく。
- 林業関係者への研修、情報提供を通じ、地域材の有効利用、森林環境譲与税を活用した公共施設の木質化を推進していく。

# 森林環境譲与税の効果的な活用に向けた支援

～森林施業研修会の開催～

所属：上川総合振興局南部森林室

## 背景

○森林環境譲与税を活用した森林整備を進めるに当たり、市町村林務担当者等が市町村単独事業による森林整備作業の具体的な進め方について、理解することが必要。

## 目的

○市町村林務担当者等を対象に、地域特性に応じた適切な森林施業技術・知識の習得を図る。  
○先進的な活用事例を紹介し、取組イメージの共有を図る。

## 活動内容

○市町村林務担当者や森林組合職員等を対象に、適切な森林施業技術・知識の習得を図るため、「森林施業研修会」を開催した。

【日時】令和4年10月18日（火）10:00～12:00

【場所】上富良野町内

【参加者】市町村・森林組合・林業事業体ほか 22名

【講師】北海道指導林家 村上 登氏

【内容】①「村上指導林家の山づくり」  
②「地理情報空間アプリ「Mapry(マプリイ)」の実演」  
③「森林環境譲与税を活用した森林整備」



村上指導林家による講義



「Mapry(マプリイ)」の操作実演



森林環境譲与税の活用事例の紹介

## 活動の成果

- 意向調査等で判明した未整備森林は、森林環境譲与税を活用した森林整備が見込まれるため、村上指導林家が実践しているカラマツ林の管理手法等の講義により、間伐後の林分イメージを共有することができた。
- 間伐の事業計画(周囲測量・標準地)を作成するにあたり、「Mapry(マプリイ)」の利用による調査業務の軽減を提案し、理解を得ることができた。
- 森林環境譲与税の活用事例として、上富良野町から実際の間伐施工地で取組の経緯を紹介したことで、各市町村や森林組合等の職員と活発な意見交換ができ、今後、他の市町村への波及効果が期待される。

## 今後の課題

- 森林環境譲与税を活用した森林整備をさらに進めるため、各市町村の課題に応じた整備手法の検討が必要。
- 「Mapry(マプリイ)」を導入するにあたり、実際の作業での利用可能性を実証することが必要。

## 展開方法

- 市町村が抱える課題と取組の共有化、市町村間の連携強化を図り、類似の課題に対して効率的・効果的な支援を行う。
- 市町村や森林組合を対象に、「Mapry(マプリイ)」を利用した調査・測量の実証試験を企画、実施する。

# コンテナ苗植栽を見据えた取組

～林業軽労化技術研修会の開催～

所属：上川総合振興局北部森林室

## 背景

- 植栽の担い手不足は深刻であり軽労化は必須。
- コンテナ苗導入は軽労化に効果的だが、植栽現場での小運搬は裸苗に比較して効率が悪い。

## 目的

- コンテナ苗植栽を推進するため、管内の林業関係者に対して、新たな機材の導入による苗木小運搬作業の軽労化、効率化への理解促進を図る。

## 活動内容

- 上川北部流域森林・林業活性化協議会と連携し、管内の森林組合等林業事業体、市町村の担当者を対象に林業軽労化技術研修会を開催した。

【日時】平成4年11月1日（火）13:30～15:00

【場所】下川町スキー場

【主催】上川総合振興局北部森林室普及課・上川北部流域森林・林業活性化協議会

【参加者】管内市町村担当者・林業事業体・指導林家等 33名

【講師】上川北部森づくり協同組合 理事長 谷口栄二氏（北海道指導林家）

下川町森林組合 事業部森林整備課 課長補佐 板橋太郎氏

上川総合振興局北部森林室普及課

【内容】①コンテナ苗の運搬について（普及課）

②軽トラックのクローラ化について（谷口指導林家）

③電動小運搬機によるコンテナ苗運搬について（板橋課長補佐）

④クローラ化軽トラックの試乗・電動小運搬機の操作体験



谷口指導林家による説明



電動小運搬機の操作体験



クローラ化軽トラックの試乗

## 活動の成果

- 各講師より、新たな機材導入は造林作業者の負担軽減に繋がり、1人当たりの植栽本数が向上するなどの説明があり、造林作業全体の効率化について理解を深めることができた。また、機材の導入における留意点・運用に関する知見を得ることができた。
- 操作体験や試乗を通じて機材の効果を体感し、軽労化への理解及び知識をより深めることができた。
- 研修会に参加し、小運搬軽労化の必要性を理解した事業体が、実際に機材を導入した。

## 今後の課題

- 一般民有林でのコンテナ苗植栽の推進が必要。
- コンテナ苗運搬の負担軽減を図るには、機材導入のほか、作業システムの見直し等の検討が必要。

## 展開方法

- コンテナ苗植栽の優位性について普及啓発を行う。
- 乗用草刈り機による苗木運搬や一貫作業システムなどの事例を紹介し、一般民有林での普及定着を図る。



# 地域を守る多様な森林づくり

～留萌森づくり交流会の開催～

所属：留萌振興局森林室

## 背景

- 管内の一般民有林では、コンテナ苗が活用されていない。
- 天然林資源が成熟しており、特に急傾斜地における施業方法について検討が必要。

## 目的

- コンテナ苗の活用促進のため、その優位性の理解を深める。
- 急傾斜地の天然林について、施業実施の可否、方法、留意点等を検討し、その手法を探る。

## 活動内容

- コンテナ苗の活用や急傾斜地における天然林施業を検討するため、管内の林業関係者等を対象に「留萌森づくり交流会」を開催した。

【日時】令和4年11月11日（金）10時30分～15時00分

【場所】①天塩町 アカエゾマツ展示林（旧天塩農協山林）  
②遠別町 コンテナ苗（アカエゾマツ）植栽地（鹿遠農場山林）  
③遠別町 天然林施業予定地（志子田山林）

【主催】留萌振興局森林室

【参加者】町林務担当者、森林組合職員、留萌南部・北部森林管理署職員、北海道指導林家等（合計30名）

【内容】①天塩町北部に自生するアカエゾマツ純林の現状について  
②コンテナ苗功程調査後の生育状況と優位性について  
③急傾斜地における天然林（針広混交林）の施業方法の検討



アカエゾマツ純林の現状



コンテナ苗の優位性の確認



天然林の現地検討

## 活動の成果

- 活着率や植栽後の樹高成長等、コンテナ苗の優位性の理解が深まり、コンテナ苗活用への理解促進につながった。
- 天然林（針広混交林）の現状を把握し、間伐等の施業を実施するにあたっての伐採方法や伐採木の選定、搬出方法などを検討し、急傾斜地における施業方法について技術・知識の向上を図ることができた。

## 今後の課題

- コンテナ苗の活用をさらに進めるには、優位性のみならず、植え付け方法や保育施業での省力化・軽労化等の理解促進が必要。
- 天然林施業の収益性について検証が必要。

## 展開方法

- 地域の林業関係者を対象に、コンテナ苗の植栽・保育作業の研修会を開催する。
- 天然林施業実施箇所において、施業の方法及び収支等に係る現地検討会を開催し、収益性の検証と森林整備事業の推進を図る。

# 製炭技術・薪炭林の管理に向けた支援

～林業後継者育成事業(林業講座)の開催～

所属：宗谷総合振興局森林室

## 背景

○中頓別町で活動している「じんぺい炭窯クラブ」は製炭技術の継承に取り組んでいるが、技術・知識が不足している。

## 目的

○適切な継承に向けて、製炭に関する実践的な技術の習得を図る。

## 活動内容

○製炭技術の習得と薪炭林の管理について理解を深めるため、じんぺい炭窯クラブの会員及び後継者を対象に、林業後継者育成事業(林業講座)を開催した。なお、宗谷地区指導林家連絡協議会研修会を併せて開催し、指導林家をはじめとする地域関係者との情報共有を図った。

【日時】令和4年11月9日(水) 13:00～16:00

【場所】室内研修：中頓別町 中頓別町民センター会議室  
実地研修：中頓別町 岩田指導林家山林  
じんぺい炭窯クラブ所有の炭窯

【主催】宗谷総合振興局森林室

【参加者】じんぺい炭窯クラブ、森林所有者、北海道指導林家、森林組合、市町村講師、森林室 計15名

【内容】室内講話：①炭焼きと特用林産について(森林室)  
②炭焼きに魅せられて(山を守り育て、未来につなぐ)(恵庭市水口指導林家)  
実地研修：岩田指導林家の薪炭林の視察(岩田指導林家)  
じんぺい窯の現状と課題(じんぺい炭窯クラブ高田氏)



水口指導林家から炭焼きの説明



岩田指導林家から薪炭林の説明



高田氏から炭窯の説明

## 活動の成果

○経験豊富な講師から直接指導を受けたことにより、適切な炭窯施設の管理や効率的な炭焼技術など、実践的な技術の習得を図ることができた。  
○じんぺい窯の現状や改善点等を把握し、活潑な意見交換を行うことができた。

## 今後の課題

○中頓別町において、製炭技術を適切に継承していくには、今後も地域関係者と連携して継続した活動に取り組むことが必要。

## 展開方法

○じんぺい炭窯クラブの林業グループへの組織化を図り、製炭技術の向上、産業化を目指した普及指導活動を展開する。

# ICTによる効率的な森林管理業務の推進 ～レーザードローンなどの活用に向けた技術研修会の開催～

所属：オホーツク総合振興局東部森林室

## 背景

- 林業労働人口の減少に対応するため、労務の軽減や効率化が求められている。
- UAVなど導入が進んでいるが積極的に活用されていない。

## 目的

- ICT技術の活用による各種業務の効率化に対する意識の醸成を図る。
- ICTに関する知識や技術力の向上を図る。

## 活動内容

- ICTの活用を推進するため、各関係機関と連携し技術研修会を開催した。
  - 【日時】 令和4年10月25日(火) 10:30～15:30
  - 【場所】 ①現地研修 瀬口指導林家所有山林・新生紀森林組合工場土場  
②室内研修 置戸町境野公民館
  - 【主催】 オホーツク総合振興局東部森林室
  - 【参加者】 市町林務担当職員、森林組合、林業事業体、指導林家、森林管理署等 計27名
  - 【講師】 住友林業(株)山林部 田上氏、紋別山林事業所 岡本氏、東部森林室 齋藤主幹(森林総合管理)
  - 【内容】 ①現地研修
    - ・レーザードローンの紹介と活用方法について(講師:住友林業(株))
    - ・丸太検知システムの活用方法について(講師:東部森林室)
 ②室内研修
    - ・レーザードローンの画像解析等の方法について(講師:住友林業(株))
    - ・丸太検知システムの撮影データ処理方法について(講師:東部森林室)



レーザードローンの飛行実演



丸太検知システムの紹介



室内研修

## 活動の成果

- レーザードローンによるレーザー計測の仕組みと、画像解析等の基礎について習得することにより、スマート林業への意識の醸成を図ることができた。
- 丸太検知システムなど、林業の現場で活用できるICT技術が、森林管理業務の省力化に繋がることへの理解が深まった。

## 今後の課題

- ICT技術を積極的に活用していくためには、森林管理に携わる技術職員や現場作業員の理解と関心を引くような動機付けが必要。
- 森林管理業務等の労務軽減や事業の効率化にはICT技術の活用に関する知識や技術の習得が必要。

## 展開方法

- 日々技術革新が進むICT技術に関する情報収集を行い、各事業体へ積極的に情報発信する。
- UAVを導入した事業体と連携し、技術職員などを対象に森林管理業務等の効率化を図るための研修会を開催する。



# 無間伐林分の解消に向けた間伐等の推進 ～ 林業普及指導事業活動計画における重点課題の取組～

所属：オホーツク総合振興局西部森林室

## 背景

○高齢化や世代交代により森林所有者の施業・管理意欲が減退し、適切かつ計画的な施業が行われていない人工林が増加している。

## 目的

○森林所有者に森林整備への理解と意欲を喚起するとともに、間伐等の施業実施及び森林経営計画への新規参入を促し、無間伐林分の解消を図る。

## 活動内容

- 無間伐林分や 10 年以上間伐が実施されていない林分を推進対象とし、森林所有者に対して施業の実施及び森林経営計画への加入促進を行った（令和4年度目標：間伐等施業の実行確保 20ha、森林経営計画新規参入者の確保 5 名）。
- ①森林調査簿や衛星画像等から抽出した林分及び森林所有者について、市町村や森林施業プランナー等から情報収集。
  - ②情報収集の内容を基に現地調査を行い、調査結果から今後必要な施業等をまとめた林分診断書を作成。
  - ③森林施業プランナー等とともに森林所有者 16 名を戸別訪問し、パンフレットを活用した補助制度等の説明や、林分診断書等を基に現況説明及び今後必要な施業を提示。合わせて森林経営計画に未加入の森林所有者 6 名に対し森林経営計画への加入を促進。



森林施業プランナーとの打合せ



現地調査



戸別訪問による施業等の推進

## 活動の成果

- パンフレットを活用して森林整備（補助制度）や森林経営計画に関する詳細な説明を行ったことで、各制度に関する森林所有者の理解度の向上に繋がった。
- 所有林分の現状を把握していない森林所有者に林分診断書等を用いて推進を行ったことにより、森林整備の重要性や施業の必要性について理解が得られ、間伐等の実施や森林経営計画への新規参入者の確保に繋げることができた。
- ・間伐等施業の実行確保：5 名・28ha・31 林分
  - ・森林経営計画への新規参入者の確保：4 名・126ha・74 林分

## 今後の課題

○無間伐林分等を所有する森林所有者の多くは森林経営管理制度における意向調査対象者だが、市町村においては意向調査の実施に留まっており、その後の対応について支援の強化が必要。

## 展開方法

- 市町村職員を対象とした森林経営管理制度等に係る研修会の実施。
- 市町村等と連携し、森林管理に前向きな意向調査回答者を対象とした森林経営計画への加入促進及び施業の推進を図る。

# 森林組合の地域貢献への支援と職員のスキルアップの取組

～要請に対応できる人材の育成・確保～

所属：十勝総合振興局森林室

## 背景

- 地域で木工技術や木育アイデアを持った木育等に対応できる人材を確保することが必要。
- 地元森林組合の地域貢献（木育等）への意欲が高まってきている。

## 目的

- 森林組合職員に対し、地域応援団としての意識の向上を促すとともに、木育に関して経験が少ない職員でも対応可能な木工技術・知識の習得を図る。

## 活動内容

これまで森林室大樹事務所が行っていた大樹町から支援依頼のある各種木育行事等に、森林組合職員の参加を促し、自ら活動できるよう重点的に普及指導を行った。

### ○児童を対象とした休日学習

#### 1 サンドイッチ式きのこ栽培

【準備日】4月16日（土）

【開催日】5月21日（土）

【客 体】2～6年生12人

【指導者】森林組合職員2人、  
事務所職員1人

【内 容】事前に準備したシラカバ原木にサンドイッチ式によるナメコの植菌を実施。



原木（シラカバ）の準備



サンドイッチ式による植菌

#### 2 おがこ着火剤つくりと紙すき

【開催日】9月3日（土）、  
11月13日（日）

【客 体】2～6年生5人

【指導者】森林組合職員2人  
事務所職員1人

【内 容】おがこと蠟を利用した着火剤つくりと紙すき体験による葉書つくりを実施。



おがこ着火剤つくり



紙すきを体験する児童

## 活動の成果

- 森林組合職員を指導の主担当者として位置づけたため、責任感と技術力アップが図られた。
- 客体や町担当者からの反応が良かったことにより、森林組合の予算事業となり、今後の継続した活動につながった。

## 今後の課題

- 対応できる職員を固定化せず、森林組合全体で対応可能な体制に向け、職員のスキルアップ等継続的な支援が必要。
- 地域応援団として、継続的な地域貢献活動が行える体制を整備することが必要。

## 展開方法

- 研修内容や方法など準備段階から森林組合と検討を図るとともに、事前の個別指導等により、技術向上を支援。
- 木工体験研修会等で森林組合職員が指導者として参加することで職員の技術向上を図る。

# より若い世代への森林・林業の認知度アップの取組

～弟子屈町立美留和小学校での出前講座の開催～

所属：釧路総合振興局森林室

## 背景

○林業・木材産業の担い手確保に向け、高校生を中心に  
出前講座を実施しているが、他の産業と比べて認知度が  
非常に低いため、より早期から森林・林業を知って  
もらう必要がある。

## 目的

○小学生を対象とした出前講座を実施し、より早い  
段階で森林・林業への関心を高め、林業・木材産業の  
認知度アップを図り、将来的な担い手確保に繋げて  
いく。

## 活動内容

○地域の教育関係者からのアドバイスを参考に、少人数教育の実施校である弟子屈町立美留和小学校において森林・林業に関する出前講座を実施した。

【日時】令和4年10月26日(水)10:35～12:10(3・4時間目)

【場所】弟子屈町立美留和小学校、弟子屈町有林

【参加者】弟子屈町立美留和学校 全児童(3～6年生)6名、教師7名 計13名

【講師】森林室 普及課3名

【内容】テーマ:「人工林と天然林のちがいをさがそう」

・現地観察:隣接する人工林と天然林内で散策を行い、「木の種類」「木の大きさ」「地面の状態」「何か気付いたこと・見つけたこと」について児童が自由に観察を行う。

・室内発表:教室で児童が観察結果を発表する。

※児童達が観察する際のポイントを示した「観察カード」を事前に配布し、森林内で発見したことを各自で記録してもらった後、教室でタブレットを使った発表を行った。



森林内での観察開始



ヒントを与える普及指導職員



教室での発表会

## 活動の成果

○森林内で観察と記録を行い、児童それぞれが見つけた人工林と天然林の違いについて発表を行うことで、自主的に考え行動しながら、森林や林業への関心を育むことができた。

○森林室普及課では小学生を対象とした出前講座の実施は初めてであったが、学校からは「他の小学校でもこのような活動をぜひ行ってほしい」との評価をいただき、今後も継続的な出前講座開催の要望を受けることができた。

## 今後の課題

○出前講座の活動を、他の小学校へ拡大する場合、対象となる学年や授業を受ける児童数の他、引率する教師の人数などにより、活動内容を検討することが必要。

## 展開方法

○出前講座実施に向け、学校側との早期の打合せを行うとともに、学年・児童数に合わせた複数のテーマ(プログラム)を作成。  
○振興局林務課木育担当と連携することで、相手に応じた幅広い活動を展開。



# 森林経営管理制度に係る取組への支援

## ～羅臼町における森林環境譲与税を活用した間伐の実施～

所属：根室振興局森林室

### 背景

○羅臼町の一般民有林の人工林は、その多くが急斜面に点在しているなど、林業経営に不向きな森林が多く、森林経営計画が策定されておらず、必要な箇所の森林整備が進んでいない。

### 目的

○森林経営管理制度を活用した森林所有者の負担軽減や町職員の森林整備に関する技術及び知識の向上を図るなど、森林整備を推進できる体制を整備する。

### 活動内容

- 羅臼町における森林経営管理制度に係る取組に対して、令和元年度から「森林の状況把握・森林所有者に対する意向調査・境界特定等の現地調査・森林所有者への現地説明」等の支援を行い、令和3年度末に経営管理権集積計画が策定されたことから、令和4年度においては次の支援を行った。
- ① 市町村森林整備計画実行管理推進チーム会議等を通じ、森林環境譲与税を活用した間伐事業の発注方法等について綿密に打合せを行うとともに、各関係者（町・林業事業者等）で発注～間伐実施～完成検査までの進捗状況等を共有した。
  - ② 間伐事業発注後の現地にて、町職員に対して間伐の方法や実施状況の確認方法等について指導した。



ドローンによる森林の状況把握（R元）



GPS内蔵タブレットを活用した境界特定（R3）



各会議等による進捗状況の共有等（R4）



間伐方法及び実施状況確認の指導（R4）

### 活動の成果

- 令和元年度から令和4年度に行った羅臼町の取組に対する森林室の支援などにより、森林環境譲与税を活用した森林整備事業が実施され、森林所有者に負担を掛けずに5haの間伐が実施できた。
- 羅臼町において、森林整備に係る一連の流れを経験したことにより、町職員の技術や知識の向上が図られ、また、森林整備の必要性について理解が深まったことにより、町内の未整備森林等の適正な管理への意欲が高まった。

### 今後の課題

- 森林整備のさらなる推進のために、森林経営計画等による適切な管理が必要。
- 市町村職員は短い周期で異動するため継続した支援が必要。
- 森林環境譲与税の継続的な活用を図ることが必要。

### 展開方法

- 意向調査で森林整備の意向があった箇所については、まずは森林経営計画の策定（編入）を促進。
- 市町村職員向けの研修会等（森林経営管理制度や森林環境譲与税の使途等）の実施。